

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	メラトニン-活性酸素種-腎臓内RAS経路を介した新たなCKD治療戦略の検討
研究責任者	大橋 温
研究機関名	浜松医科大学 第一内科
研究目的と意義	慢性腎臓病(CKD)の有効な治療法はいまだ確立していない。また、概日リズムを制御するメラトニンは、腎機能低下とともに低下し、メラトニンの抗酸化能低下が、高血圧の発症に関係する。しかし、メラトニンの血圧非依存性の腎臓保護効果は確立しておらず、そのメカニズムとして腎臓内活性酸素種(ROS)を介した腎臓内レニン-アンジオテンシン系(RAS)経路の関与は不明である。以上よりメラトニン-ROS-RAS 経路の存在を検証し、同系路が CKD 進行予防の新たな治療戦略となるかを明らかにする。
研究期間	西暦 2015 年 2 月 (倫理委員会承認後) ~ 2018 年 1 月
研究方法	<p>●対象となる患者さん：20 歳から 80 歳までの原疾患を問わず、透析患者を除いた CKD stage 1~5 の患者。比較対象として、CKD を有さない健常者。本研究は、浜松医科大学倫理委員会にて承認され (承認番号第 23-193 号「腎臓内レニンアンジオテンシン系(RAS)の日内変動と腎障害の関係」)、平成 24 年 2 月~平成 25 年 8 月に同意をもとに収集された試料を用いての研究となる。</p> <p>●研究に使用する試料：</p> <p>(1) 尿 20ml</p> <p>●研究方法</p> <p>「腎臓内レニンアンジオテンシン系(RAS)の日内変動と腎障害の関係」で収集された年齢、性別、身長、体重などの患者背景の情報、24 時間血圧、血清クレアチニン、血漿 RAS マーカー、及び 6 時~21 時を昼間、21 時~6 時を夜間と分けて施行した尿中アルブミン・蛋白排泄率や尿中アンジオテンシノーゲン排泄率のデータに加え、今回新たに尿中 6-sulphatoxymelatonin、尿中 8-isoprostane 濃度を測定する。</p>
問い合わせ先	〒431-3125 浜松市東区半田山一丁目 20 番 1 号 浜松医科大学医学部附属病院 診療科：第一内科 担当者：大橋 温 TEL：053-435-2261 FAX：053-434-9447 E-mail：ohashi-n@hama-med.ac.jp